

けやき

'80 / 12 No 160

埼玉音楽鑑賞協議会機関紙

編集 / 埼玉音鑑宣伝部

燃える邦楽器

世界の感動呼ぶ現代邦楽

日本音楽集団



1 / 27 (火)

会費 2,500 円 (入会金100円)

PM 6:30 埼玉県商工会館

▼日本フィル——それは、単なる音楽芸術家の集団ではない。音楽を、文化をつみとろうとする不当なる力と懸命に戦っている「人間の集団」である。▼ある時、ピアノの宮沢明子さんが、日フィルの演奏に感激して「音楽に大切なのは、一生懸命音楽すること、一生懸命生きることだと言うことを、日フィルから教えられました。」と語った。また渡辺暁雄氏も指揮者として「こんなに厳しく燃えるオーケストラは他にない。私が指揮をしているのか、みんなに指揮させられているのか、わからなくなる時がある」と感想を述べた。▼フジテレビ・文化放送による一方的な運営資金の打ち切りと戦いつづける日フィルなればこそ、人々の心を揺るぶるような、音楽を創り出せるのだろう。

▼ガンバレ・日フィル!!

はーもーん

2月 御諏訪太鼓
2/24(火) 6:30
埼玉県商工会館
会費2300円 (入会金100円)



3月 杉田二郎 3/31(火)
全国一三八景歌祭りコンサート
「ここが地球のどまんなか」

「戦争が終って僕らは生まれ...」この唄をみんなが口ずさみはじめたのが、もう八年も前だなんて、うそみたいな気がする。ライオンのたて髪みたいな髪をふりみだして、日本中を唄い歩いている人。杉田二郎。またの名をライオン丸。コンサートを聞いてみると、唄っている側の熱気が、びんびん感じられる。絶叫あり、やさしさあり、そして

たのしさあり...。終ったあとまであったかさが残る唄をうたってくれる人である。人間は街の中で生活し生きている。日本中いろんな町があるけれど、そこに住む人は、住んでいる所が世界なのだ。「ここが地球のどまんなか」の名のとおり、自分自身が主人公なのだ、そんな人間たちと、その人間の生きている街を、夢と愛を込めて、いつまでも唄いつづけてほしい人である。

♪うたのひろば♪

12/18(木) No.33
PM 6:30 参加費 200円

大宮婦人労働福祉会館

- ☆杉田二郎全国百38景歌祭り
- ☆インタビュール とんぼ
- ☆五輪真弓
- ☆西岡たかし // 納涼コンサート //
- ☆日本音楽の歴史
- ☆ジャズナル
- ☆レコード・ガイド
- ☆コンサート・ガイド

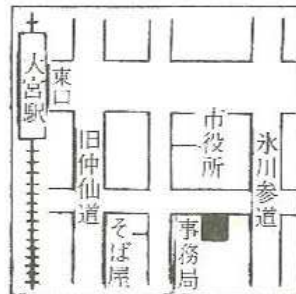
月刊音楽
12月号
一部 2000円
年間 22000円

'80 音鑑大望年会

時：12/20~12/21(日) ゲスト 山田 仁
所：寄居 学習会館 (フォーク歌手)

歌あり、ゲームあり、コンサートあり 楽しさいっぱい
年に一度の望年会、みんな参加しよう！

埼玉音鑑、大ピンチ！
会員組織がへって財政上では、火の車、なんとかこの機を早く脱出しなければ、本当に会員の皆さんと、真剣に話し合わなければいけません。



受付時間は午前10時~午後七時まで
日曜祭日は休み
埼玉音鑑事務所
大宮市仲町三五六五
大宮 (四二) 三九八五
(四二) 二二九九〇

はら事務局

交響曲第九番《合唱付》出演者

指揮：渡辺暁雄

管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団
ソプラノ＝勝本章子
アルト＝志村年子
テノール＝田口興輔
バス＝勝部太

合唱：埼玉第九合唱団
県北第九合唱団
川越第九合唱団

合唱指導：田尻明規
発生指導：藤沼昭彦
ピアノ演奏：伊沢裕子

●ベートーベン作曲

「プロメテウスの創造物」序曲



渡辺暁雄

一九五六年、文化放送専属オーケストラとして発足した日本フィルの創設に参画。以来十二年にわたり常任理事、音楽監督、常任指揮者を務めた活躍ぶりは、日本音楽壇史上めざましいものがある。一九六八年日本フィルを

一九一九年、東京に生まれる。一九四二年東京音楽学校（現東京芸大）を卒業した後、一九四六年指揮者としてデビュー

辞しスイスに移住、一九七九年、十年ぶりに日本フィルの音楽監督、常任指揮者に復帰、以来現在に至るまで精力的に活躍している。

交響楽団

日本フィルハーモニー交響楽団は、文化放送によって一九五六年に設立され、ついで開局したフジテレビも加わって、両者が資金を

出して運営してきました。しかしながら、日フィル労組結成を理由に、一九七二年援助金打ち切り、六月には楽団の存続を願う楽員、市民の声を無視し、財団法人日本フィルの解散、全楽員の解雇を強行しました。以来、楽団存続を願う多くの市民に支えられ、楽員自ら運営にあたり、演奏活動を続けてきました。この闘いの中で「人間らしい生き方にこたえる音楽」への道を歩き出しています。

交響曲第九番

合唱付

ベートーベンは一八一五年十月、心をゆるした友人のマーリー・エルデッティに人は苦悩と歓喜のために生まれてきたのであり、最もすぐれた人間は苦悩をつきぬけて歓喜を手にするのだという。有名な言葉を書き贈りました。その苦悩が第五におけるベートーベン個人のものを越えて、彼、全

存在をつつみこんでいる社会の根本の問題にまで拡大されてゆくのです。

第九は、第三章までは第五における同じゆき方、つまり「苦悩をつきぬけて歓喜を」の方式でつくられ、第三楽章の美しいきわみの音楽は、闘いによって手にしえた理想の楽園をあらわすのでしよう。本来ならばこの交響曲は、これで終つても十分いいた

のあとにくる第四楽章は、すでにえられた喜びの楽園をうけつぎ、それをさらに高くうたいあげれば幸いです。しかし彼は、それでは満足できず、さらに高い度合で平和の敵に対する勝利を声たからかに歌い上げたかったのです。しかもそのうたった勝利は、そして喜びにみたまされた楽園は、現実に押しつぶされた、窒息させられているのが現状です。ベートーベンの生活と環境のうちには、喜びのひ

第九合唱団員

- ソプラノ
 青木幸子 忍山真由美
 沢野啓子 山本美苗 吉田
 紀子 福永俊江 篠原美代
 子 新井サカエ 丸山恵美
 子 鈴木登美子 北川玲子
 関根恵美子 薮島祥子 山
 田礼子 伊沢裕子 井ヒ宏
 美 佐藤範子 河内美地子
 大森清美 中安美恵子 紺
 野とし子 石田昭子 田島
 恵子 前川元子 見富まり
 子 野村孝子 山本真理
 朝倉奈保子 大谷和子 似
 内ヨネ子 千葉茂子 加茂
 下豊子 豊田恭子 野本喜
 代子 平野典子 増渕恵子
 藤原美穂子 松本ミキ子
 宮坂恵子 嶋野洋子 星美
 江 井上智恵子 永田充代
 細田淳子 山野井由美子
 吉野るりよ 角田まみえ
 湯本まさ子 浪江美延 水
 戸順子 小阪すみえ 柏原
 幸子 原沢桂子 田中紀子
 宮坂恵子 嶋野洋子
 アルト
 柿沼朋子 熊井恵美子 沢
 野悦子 堀江君江 八木橋
 弘子 橋本紀代 田中マエ
 子 保坂宏子 新井美佐子
 大沢英子 沢原光 田幸恭
 子 福沢宏子 赤石優子
 三須久美子 太田幸子 引
 削田美恵子 五十嵐裕子
 小野田裕子 八幡妙子 石
 塚京子 寺尾安子 尾藤松
 代 三角徳子 宮崎紀子
 坂田安子 掛飛佳世子 根
 岸弘子 丘美千世 岩井美
 江子 清水尚子 伊原まゆ
 み 三宅洋子 松田美栄子
 松村秀子 渡辺裕子 桜井
 閑子 大間久子 鈴木晶子
 田しのぶ 斉藤栄子 池
 田鞠絵 茂野優子 田中典
 子 テノール
 岩崎清勇 金沢利則 坂由
 雄 西塚泰洋 高橋賢治
 米本敬一 飯ヶ浜幸雄 加
 藤広明 生駒孝 飯ヶ浜長
 次 小山明 高橋敏也 三
 村隆男 久保田守 大熊勝
 則 新祖章 鈴木博 田中

宏明 福島幸夫 南哲郎
 岡田稔 松下清一

バス

尾池利一 神田一伸 長
 島重明 吉山三郎 莊延康
 斉藤仙吉 萩原征而 倉繁
 健一 蓮実研一 伊能利男
 山下正芳 丸田高 勝岡義
 己 西川裕二 本間敏夫
 室谷秀男 榎本法夫 高橋
 正吉 鎌田明 鈴木道明
 石原伸弥 橋本史郎 清水
 裕 遠藤達博
 ほか、川越第九合唱団、
 県北第九合唱団のみなさん
 にもご協力いただきました。

横井久美子を

きいて

いつの間にか横井さんの
 歌声に引き込まれてしまし
 た。自然に涙が流れてきて
 「なぜ私は泣くのだろう」
 と恥しい気もしましたが、
 思わず涙はあふれてしまっ
 ています。ほこりを持って生
 きる横井さんをとてもすば
 らしく思いました。
 もっと多くの人が聞いた
 方がいい歌ですね。いい歌

をこれからも聞かせて下さ
 い。まだ横井さんを知らな
 い人はたくさんいます。多
 くの人に呼びかけていって
 下さい。

「私も協力します。」
 とてもいい音楽が、いい
 歌が開けたように思います。
 胸にジンとする場面がた
 くさんありました。このよ
 うなすばらしい歌をうたう
 方をこれからも横井久美子
 さんに限らずたくさん呼ん
 で欲しい。
 この間、ダカーポ、黒坂
 さん、横井さんと、とても
 よいコンサートが聞けてう
 れしいです。職場の人が黒
 坂さんに感激していました
 が、会場が近かったことも
 ありました。やはり近く
 でのいい音楽に接したいと思
 います。宣伝力を強めて、こ
 れからの音楽の活動に期待

新春 邦楽の夕べ 日本音楽集団

1/27(火) 6:30

埼玉県商工会館

日本音楽集団。日本楽器による現代の日
 本音楽を創造し発展すると共に、伝統音楽の
 発的継承をのぞんで結集した第一級の演奏家、
 作曲家からの編成されています。他に、ホーム
 グランドの東京では、年間前期と後期4回ずつ、ペ
 計8回の音楽祭、フランスの演奏会、アメリカ
 ルリンの音楽祭、海外でも決定的な評価を持
 公演など。現代日本音楽を私達は聞くチャンスも少なく、
 ぜひこのチャンスに日本音楽集団のすば
 らしい日本音楽を聞いて下さい。

2月 御諏訪太鼓
2/24(火) 6:30
埼玉県商工会館
会費2300円 (入会金100円)



3月 杉田二郎 3/31(火)
全国一三八景歌祭りコンサート
「ここが地球のどまんなか」

「戦争が終って僕らは生まれ...」この唄をみんなが口ずさみはじめたのが、もう八年も前だなんて、うそみたいな気がする。ライオンのたて髪みたいな髪をふりみだして、日本中を唄い歩いている人。杉田二郎。またの名をライオン丸。コンサートを聞いてみると、唄っている側の熱気が、びんびん感じられる。絶叫あり、やさしさあり、そして

たのしさあり...。終ったあとまであったかさが残る唄をうたってくれる人である。人間は街の中で生活し生きている。日本中いろんな町があるけれど、そこに住む人は、住んでいる所が世界なのだ。「ここが地球のどまんなか」の名のとおり、自分自身が主人公なのだ、そんな人間たちと、その人間の生きている街を、夢と愛を込めて、いつまでも唄いつづけてほしい人である。

♪うたのひろば♪

12/18(木) No.33
PM 6:30 参加費 200円
大宮婦人労働福祉会館

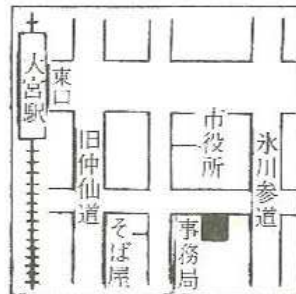
- ☆杉田二郎全国百38景歌祭り
- ☆インタビュール とんぼ
- ☆五輪真弓
- ☆西岡たかし // 納涼コンサート //
- ☆日本音楽の歴史
- ☆ジャズナル
- ☆レコード・ガイド
- ☆コンサート・ガイド

月刊音楽
12月号
一部 2000円
年間 22000円

'80 音鑑大望年会

時：12/20~12/21(日) ゲスト 山田 仁
所：寄居 学習会館 (フォーク歌手)
歌あり、ゲームあり、コンサートあり 楽しさいっぱい
年に一度の望年会、みんな参加しよう!

埼玉音鑑、大ピンチ！
会員組織がへって財政上では、火の車、なんとかこの機を早く脱出しなければ、本当に会員の皆さんと、真剣に話し合わなければいけません。



受付時間は午前10時~午後七時まで
日曜祭日は休み
埼玉音鑑事務所
大宮市仲町三五六五
大宮 (四二) 三九八五
(四二) 二二九九〇

はら事務局